



『一粒の麦！』（要旨）

ヨハネ 12・20～26 説教者 原田憲夫

今週の聖句 ヨハネ 12・24

* 賛美 [説教前] 讃美歌 21 463 番(1,2 節), [説教後] 新聖歌 102 番(1,3 節)

今日の箇所は、なぜ主イエス・キリストがこの世に来られたのか、その目的が成就される「時が来た」と告げられ、私たちに信じ従うようにと招き、挑戦されます。

【1】 人の子が栄光を受ける時が来た

「人の子」とは、旧約聖書では「終末のメシア-主権と栄光を現すメシア」として知られていました。¹ ここではもちろん主イエス・キリストご自身のことです。そして主イエスはご自分の「時」が来たと言われるのです。それはご自分がこの世に来られた目的が成就される「時」が来たということです。

しかも「栄光を受ける時」だと言われます。ついに神の使いによりラッパが吹き鳴らされ、天の軍勢が現われ、待ちに待った栄光のメシアが目的を果たされるその時が来た…。主イエスの力強い語り口です。

【2】 一粒の麦、十字架のキリスト

ところが、主イエスが語るこの「栄光を受ける時」とは、なんと輝き・栄光どころか、恥ずかしめ、苦しみ・悲しみの出来事、すなわち十字架の出来事ではありませんか。

その真意は「一粒の麦」のたとえ話から明かされます。

* 「一粒の麦が地に落ちて死ぬなら…豊かな実を結ぶ。」

つまり「死」がなければ「いのち」が生じないという、謂わば、神のいのちの原則です。

「豊かな実」とは永遠のいのちのことです。

▷ そうです。主イエス・キリストは「一粒の麦」として「死ぬ」ためにこの世に来られたのです。

私たちの罪の身代わりとなって十字架で死ぬために、そして私たちを罪の結果-滅びから救うために-永遠のいのちを与えるためにこの世に来られたのです。

【3】 豊かな実を結ぶために

では一体だれが「豊かな実-永遠のいのち」をいただけるのですか？

主イエスは別の場面で、ご自分と私たちとの関係を「ぶどうの木」とつながる「枝」との関係(ヨハネ15:5)にたとえて語られました。すなわち、「自分中心の生き方をやめ、一粒の麦、十字架のキリストに抛り頼む時、「豊かな実-永遠のいのち」にあずかるのです。

でも自分を捨てることができないと嘆くあなた…25節、26節aに耳を傾けてください。

「自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世で自分のいのちを憎む者は、それを保って永遠のいのちに至ります。

わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。」

e.g. 大正時代の伝道者升崎外彦師の半生記に記された若い女性の話；

【勧め】

一粒の麦、十字架のキリストに抛り頼む私たち-あなたの生涯が「永遠のいのち」の恵みに溢れますように！

そしてこのお方に仕える生涯を通じて、永遠のいのちの恵みがこの暗き世の中の希望の光となって現れますように！

(祈り)

(賛美)



¹ ダニエル書 7:13, 8:17, 10:18